

令和元年度 第1回

鳥栖市文化財保護審議会

1. あいさつ

2. 議 題

(1) 平成30年度事業報告 …………… 1~8

(2) 令和元年度事業計画 …………… 9~12

3. その他

日 時 令和元年7月12日(金)
午前10時~

場 所 鳥栖市役所南別館2階会議室

鳥 栖 市 教 育 委 員 会

鳥栖市文化財保護審議会委員名簿

任期 平成 29 年 10 月 1 日～令和元年 9 月 30 日

	氏 名	専門分野	所属・現職
会 長	金子 信二	民 俗	佐賀県文化財保護審議会委員
副会長	藤瀬 禎博	地域史	鳥栖郷土研究会会長
委 員	宮島 敦子	中世史	佐賀大学名誉教授
委 員	吉田 洋一	近世史	久留米大学文学部教授
委 員	大森 洋子	建 築	久留米工業大学工学部教授
委 員	石山 勲	考 古	元九州歴史資料館学芸課長 日本考古学協会会員
委 員	重藤 輝行	考 古	佐賀大学芸術地域デザイン学部 教授
委 員	黒田 達也	地域史	鳥栖市立鳥栖中学校教諭

1 平成30年度主要事業報告

(1)調査

- ① 埋蔵文化財包蔵地内における開発行為139件について事前審査を行い、64件の確認調査を行った。
- ② 内畑遺跡(元町)、岡寺古墳(田代本町)、村田三本松遺跡(村田町)の3件で、本調査を実施した。
- ③ ②の内畑遺跡の発掘調査報告書「内畑遺跡5区」(第93集)と、平成29年度の文化財事業の概要を記した「鳥栖市文化財年報 2017年度版」を作成した。

(2)保護・管理

- ① 指定文化財(国1件、県2件、市他15件)等の管理を、所有者や地元団体に委託又は、補助を行い、保護に努めた。
- ② 文化財防災啓発の一環として、1月24日に村田町八幡神社境内で消防訓練を実施した。
〈写真A〉
- ③ 史跡等の管理として赤坂古墳や剣塚古墳等の下草刈りなどを行った。
- ④ 文化財整理室・収蔵庫の再編の一環として、生活・生業にかかわる民具等を展示整備した「古野町文化財収蔵展示室」の公開を開始した。
- ⑤ 装飾古墳のヒャーガンサン古墳で、温湿度変化のデータ収集、目視による環境観察を行った(熊本県立装飾古墳館の協力により平成22年12月から継続)。

(3)普及・啓発

- ① 市重要文化財の268号機関車の公開を、九州鉄道OB会鳥栖支部と協働で、8月26日、11月1・2日に行い、見学者は合計1,105人である。〈写真B〉
- ② 装飾古墳のヒャーガンサン古墳の公開を行い、年間約400人の見学があった。
- ③ 鳥栖のまちづくりと歴史・文化講座『鳥栖の集落と交通』6を全5回開講し、合計197名の参加があった。
- ④ 勝尾城筑紫氏遺跡を核とする地域の歴史と文化財を活かしたまちづくりを市民と協働して目指す「ふるさと元気塾」を開講し、ボランティアガイドの育成を行った。
- ⑤ 市民一般を対象に、市誌編纂のため収集した古文書をテキストにした古文書を解説する講座を開講し、延べ504人の参加があった。〈写真C〉
- ⑥ 鳥栖市立図書館において通年の文化財展示を行った。展示の内容については、下表のとおり。〈写真D〉

	タイトル	期間	内容
1	常設展示 国史跡 勝尾城筑紫氏遺跡 -よみがえる戦国時代の山城 と城下町跡-	前年度末 ～7月13日(金)	勝尾城筑紫氏遺跡の概要を記したパネルと出土遺物の展示
2	企画展示 弥生時代へタイムスリップ -吉野ヶ里遺跡と鳥栖の弥生 遺跡-	7月18日(水) ～9月2日(日)	県立博物館との協力で吉野ヶ里遺跡及び同時代の市内遺跡出土資料等の展示
3	企画展示 対馬宗家田代領関係資料に みる幕末の動乱と明治維新	10月16日(火) ～次年度継続	幕末の田代や長州藩、京都の政治状況がうかがえる資料を展示

- ⑦ 小中学校教育における総合的な学習の支援を行い、安永田遺跡・剣塚古墳・ヒャーガサン古墳等の史跡を公開し、郷土の歴史・文化財や自然分野についての質問対応などを行った。
- ⑧ 商工振興課の主管事業「鳥栖市明治維新 150 年記念事業」の実施に際して、小中学校への出前講座やシンポジウムの開催、小中学生向けの冊子「鳥栖を支えた 3 つの産業」の刊行、高杉晋作漢詩碑(田代八坂神社)の建立などで全面的に協力した。

(4)勝尾城筑紫氏遺跡

- ① 史跡の整備・管理の一環として、史跡内の樹木伐採・下草刈り・倒木の処理を行った。
- ② 遺跡見学会を4月23日に行い、67名の参加があった。また秋の見学会は11月25日に行い、40名の参加があった。〈写真E〉
- ③ 実現可能な様々な方策について検討を進めるとともに、市民目線で積極的に検討・実践するワークショップを4回開催し、合計で48人の参加があった。〈写真F〉

(5)会議

- ① 文化財保護審議会は、第1回を7月27日に開催し、平成29年度事業報告と平成30年度事業計画について報告を行い、市立図書館で開催した文化財展示「弥生時代にタイムスリップ」を見学した。第2回は2月28日に開催し、鳥栖駅舎の取り扱い、事業経過報告を行った。報告後、屋根の修理を行った西法寺四脚門及び田代上町八坂神社境内に設置した高杉晋作漢詩碑の視察を行った。
- ② 勝尾城筑紫氏遺跡保存整備委員会は、第1回を2月5日に開催し、平成30年7月豪雨の被害状況及び現地視察、史跡の活用・保全管理業務の報告を行った。また、地元協議会を3月27日に開催し、平成29年度事業報告と平成30年度事業計画を報告した。



A.文化財防災訓練（村田町八幡神社）



B.268号機関車一般公開



C.古文書講座



D.企画展示「弥生時代へタイムスリップ」



E.勝尾城筑紫氏遺跡見学会（春）

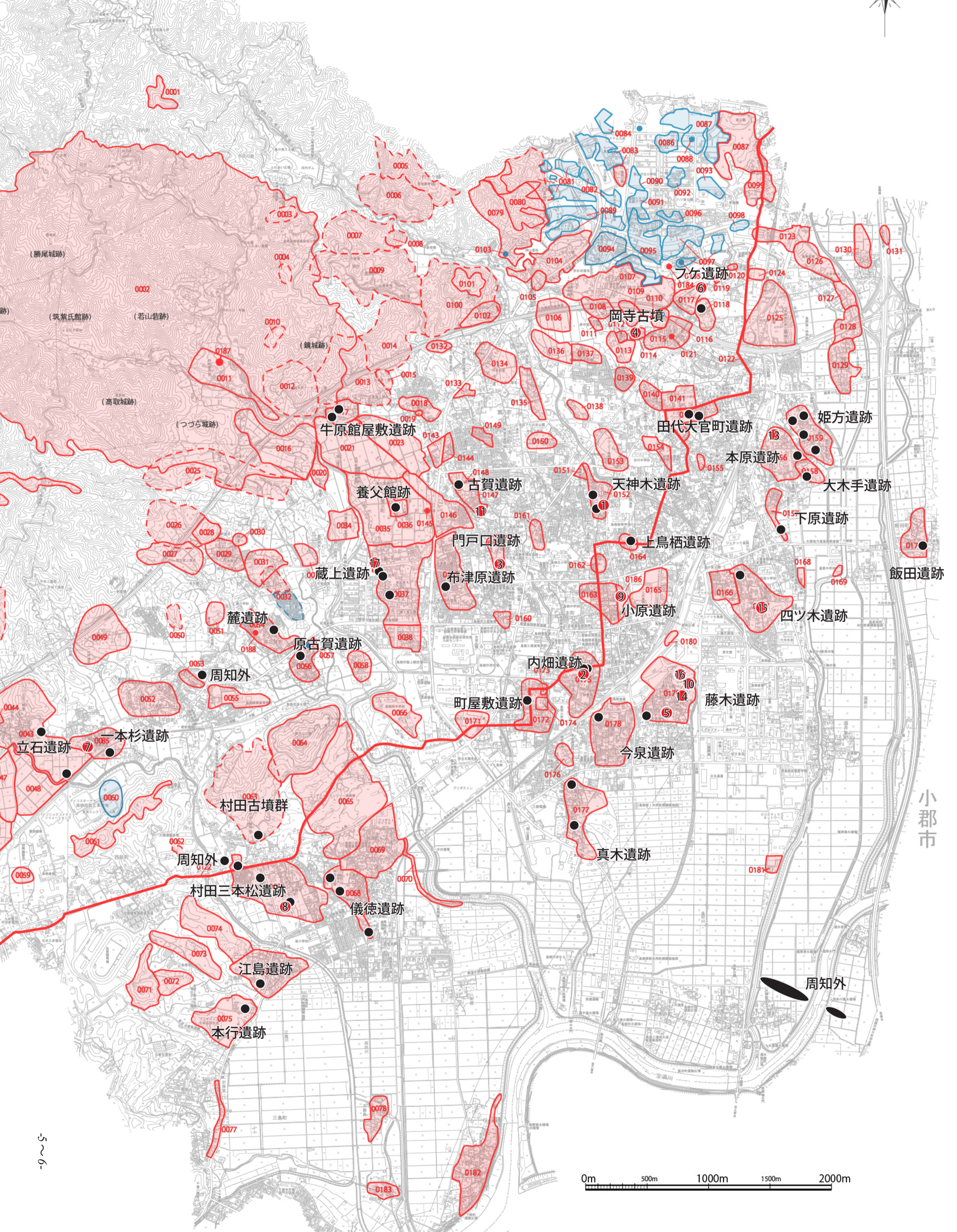
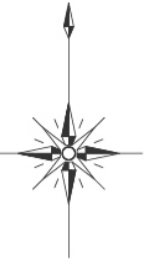


F.勝尾城筑紫氏遺跡活用ワークショップ

平成30年度確認調査により遺構・遺物を検出した地点

遺跡名	原因者	開発目的	開発予定地	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	調査期日	結果	備考
1 天神木遺跡	個人	個人住宅	鎗田町字天神木625-1他	271	6	4月10日	溝	遺構に影響を及ぼさないため慎重工事
2 内畑遺跡	合同会社E.MIREA	集合住宅	元町字内畑1088-4	971	76	4月23日	住居跡、小穴	30年度本調査済
3 門戸口遺跡	鳥栖市	有無の照会	宿町1118番地	8,000		7月2日	小穴、土坑	計画決定後、届出
4 岡寺古墳	個人	個人住宅	田代本町1365番1他	790	33	6月7日	土坑、溝	30年度本調査済
5 藤木遺跡	(有)パインエステート	宅地分譲	藤木町2286番9他	1,335	50	6月14日	小穴	遺構に影響を及ぼさないため慎重工事
6 フケ遺跡	(株)日山ホーム	有無の照会	田代本町1266番地他	7,497	280	8月3日	甕棺	計画決定後、届出
7 一本杉遺跡	(有)創立	有無の照会	立石町2159-1	1,282	30	8月10日	溝	計画決定後、届出
8 村田三本松遺跡	日山ホーム	宅地造成	村田町字三本松86番1他	6,734	250	10月10日	溝、小穴	30年度本調査済
9 小原遺跡	個人	個人住宅	大正町717番7他	135	6	10月19日	溝	遺構に影響を及ぼさないため慎重工事
10 藤木遺跡	一建設	建売住宅	藤木町1211番1他	288	38	11月28日	小穴	遺構に影響を及ぼさないため慎重工事
11 古賀遺跡	共立開発	有無の照会	古賀町470-1他	4,302	245	11月29日	住居跡、小穴、溝	計画決定後、届出 平成31年度本調査
12 本原遺跡	佐賀国道事務所	有無の照会	原町1000番1他	1,493	55	12月13日	小穴、溝	計画決定後、届出
13 本原遺跡	佐賀国道事務所	国道拡幅	原町1000番1他	1,043	55	11月18日	小穴、溝	31年度本調査
14 藤木遺跡	三和エステート	集合住宅	藤木町1215番2	223	11	1月16日	遺物のみ	遺構に影響を及ぼさないため慎重工事
15 四ツ木遺跡	個人	個人住宅	曾根崎町1133-2	377	18	2月13日	小穴	遺構に影響を及ぼさないため慎重工事
16 藤木遺跡	個人	個人住宅	藤木町1106-2	232	10	2月14日	土坑	遺構に影響を及ぼさないため慎重工事
17 蔵上遺跡	(株)シアーズエステート	建売住宅	蔵上1丁目163	414	15	2月22日	遺物のみ	遺構に影響を及ぼさないため慎重工事

平成30年度市内確認調査位置図



岡寺古墳

【所在地】 田代本町 1365 番 1、1365 番 21378 番、1379 番 5

【遺跡の時代】 古墳時代 【種類】 古墳

【調査面積】 60 m²

【事業の原因】 個人住宅建設

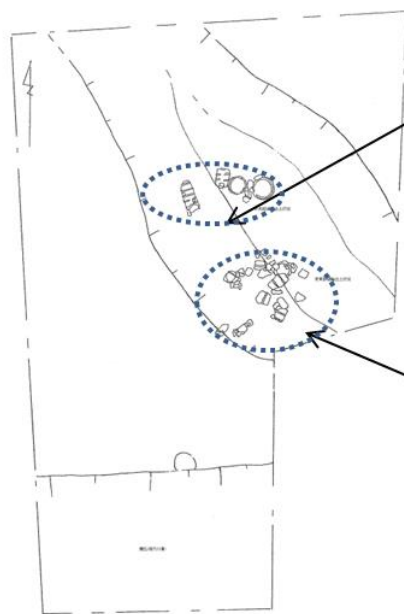
【調査の期間】 平成 30 年 8 月 1 日～8 月 10 日

【調査の概要】

当該地は鳥栖市中心部より北側、長崎自動車道より南へ約 200m に位置する。標高は 50 m 前後である。当該地を含む周辺は昭和 55・56 年に古墳の北側で 8 か所のトレンチ調査、平成 27 年 12 月に東側隣接地で住宅建設に伴い再度確認調査が行われている。墳丘の多くは削平を受け、後円部は太田山安生 境内に残り、その他は住宅地および畑地となっている。本調査区は前方部南角付近である。

調査の結果、暗褐色土の埋土の溝を検出した。主軸は北西—南東方向で幅は約 4m である。墳丘の主軸方向は東西であるので、古墳の周溝である可能性は低い。遺物は表土直下より埴輪および須恵器が出土している。埴輪の器種としては円筒埴輪が多く、その他は朝顔形埴輪と盾形埴輪が各 1 個体確認できている。出土状況は底部もしくは口縁部、胴部が上下逆さまになった状態で出土したものや、朝顔形埴輪が転がった状態でいずれも残存率は良好である。

今回の調査で検出された溝は過去に調査された周溝と古墳本体との連続性がないことからこの溝は自然流路で、古墳周辺を造成する際に、出土したものが流れ込んだ（もしくは廃棄された）ものと考えられる。



岡寺古墳 流路及び埴輪出土状況実測図 (S=1/50)



村田三本松遺跡

- 【所在地】 鳥栖市村田町字三本松 87番
【遺跡の時代】 弥生時代 【種類】 集落跡
【調査面積】 100㎡
【事業の原因】 宅地造成
【調査の期間】 平成30年11月19日～12月13日
【調査の概要】

調査対象地は鳥栖市中心部より南西に位置し、国道34号線村田交差点より南へ500mで標高は9m前後である。村田三本松遺跡の南端付近に位置する。対象地周辺は水田、畑地が広がっているが、近年の開発により宅地化が急速に進んでいる。現況は水田でここ数年耕作は行われていなかった。発掘調査は遺構に影響のある道路部分の100㎡を行った。調査の結果、調査区を東西に横切る弥生時代の溝1条を確認した。溝は逆台形の断面で、幅は約2m、深さは0.5mである。埋土中から弥生土器(甕、坪、器台)が多く出土した。事前の確認調査の結果から、溝は調査区の西側では確認されず。東側へ延びていることが確認された。その他、溝の周辺からは小穴が確認された。弥生時代中期頃と思われる。



調査区全景（西から）



調査区全景（東から）



溝断面（西壁）



作業状況

2. 令和元年度事業計画

(1)調査

- ① 市内各地に分布している埋蔵文化財について、開発に際し事前の確認・試掘調査を実施して開発との調整を図り、その保護に努める。
- ② 開発に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施し、整理・報告書を刊行する。平成30年度に調査を実施した岡寺古墳の整理作業、平成30年度に確認調査を実施し遺構を確認した、古賀遺跡(古賀町・宿町)、本原遺跡(原町)、門戸口遺跡(宿町)の3件で本調査および整理・報告書の刊行を行う。
- ③ 文化資源充実事業について、調査手法の検討を進め、可能なところから調査や資料の収集を行う。

(2)保護・管理

- ① 文化財の保存管理として、国・県・市指定文化財を中心に史跡・民俗芸能等に対し、所有者や地元団体に委託あるいは補助金の交付を行うとともに、道具類の補修・新調に対する補助を必要に応じて行い、これらの保存に努める。
- ② 史跡等の保安全管理について、下草刈りや雑木の伐採、あるいは案内板の点検等を適時行い、見学者の利便を図る。
- ③ 過去の調査で出土した遺物類や記録、あるいは市誌編纂事業の過程で収集した資料の取り扱いについて、整理を進めるとともに、保存活用方法の検討を行う。
- ④ 整理室の再編と収蔵遺物の再整理を継続して行う。

(3)啓発・普及

- ① 文化財常設展示を鳥栖市立図書館で継続して行う。
- ② ヒャーガンサン古墳・268号機関車等の一般公開、勝尾城筑紫氏遺跡の見学会等の開催、小中学校における総合的な学習の支援、一般向けの出前講座等により、広く郷土の歴史・文化や文化財の周知・理解に努める。
- ③ 市民を対象にした「鳥栖のまちづくりと歴史・文化講座」「郷土資料講座」を開講する。歴史・文化講座は、「町場の成り立ちと遷り変わり」をテーマとして全7回の座学や現地見学を行う<P10>。郷土資料講座は、市内の古文書を教材として初心者コースと中・上級者コースを開講する。
- ④ 歴史と文化財を活かしたまちづくりを目指して、市民と協働した「ふるさと元気塾」を開

講し、史跡ガイドの育成等に努める。

(4)勝尾城筑紫氏遺跡

- ① 史跡整備基本計画に基づき、葛籠城跡地区の公有地化を進める。
- ② 史跡の保全管理を行う。
- ③ 史跡の積極的な公開活用の施策について検討を進める。
- ④ 史跡の保存活用に対する市民目線での様々なアイデアを募るワークショップを昨年に引き続き開催する。

令和元年度鳥栖のまちづくりと歴史・文化講座年間計画

回	日時	内容	会場／集合
1	6月15日(土) 13:30~15:30	「祇園神社の勧請と小郡町の遷り変わり」 ■講師 寺崎 俊文 氏(小郡郷土史研究会)	鳥栖北まちづくり 推進センター
2	7月7日(日) 13:30~16:00	「田代八坂神社の勧請～田代町を歩く」 ■講師 藤瀬禎博 氏 (鳥栖郷土研究会) (見学先)田代町ほか	田代まちづくり 推進センター
3	8月3日(土) 13:30~15:30	「博多の町づくりと遷り変わり」 ■講師 大庭康時(福岡市埋蔵文化財センター)	田代まちづくり 推進センター
4	9月8日(日) 8:30~17:00	「博多町家ふるさと館と博多の史跡探訪」 (見学先)博多町屋ふるさと館と寺町ほか	鳥栖市役所 職員玄関前
5	10月5日(土) 13:30~15:30	「瓜生野町の成り立ちと遷り変わり」 ■講師 藤瀬 禎博 氏 (鳥栖郷土研究会)	本町会館
6	12月15日(日) 13:30~16:00	「瓜生野町～轟木町を歩く」 (見学先)瓜生野町、轟木町ほか	鳥栖市役所 職員玄関(仮)
7	1月18日(土) 13:30~15:30	「轟木町の成り立ちと遷り変わり」 ■講師 藤瀬 禎博 氏 (鳥栖郷土研究会)	鳥栖市立図書館 視聴覚室

古賀遺跡(3区)

【所在地】古賀町字稲塚 470-1・2、471-1・2、宿町字船底 515-1

【遺跡の時代】弥生時代、古墳時代

【種類】集落跡【調査面積】500 m²

【事業の原因】宅地造成

【調査の期間】令和元年5月24日～7月5日

【調査の概要】

本遺跡では、過去に若葉小学校の建設に伴う1～2区の調査を実施し、弥生時代～平安時代の遺構を確認している。本調査区は3区で、過年度調査地である若葉小学校より南東300m、標高約30mの段丘上に立地する。調査区は西の宿町側と東の古賀町側の2地区に分け、宿町側をA地区、古賀町側をB地区とした。

調査の結果、A地区では弥生時代終末から古墳時代初頭の住居跡3軒、時期不明の土坑1基、時期不明の溝1条、そのほかピット156基を確認した。18Lコンテナ6箱分の遺物が出土した。B地区ではピット3基を確認したが、遺物は須恵器と土師器の小片が少量確認できたのみである。

SH301は長軸6.54m、短軸4.88m、深さ0.41mを測る。平面形状は隅丸長方形を呈する。SH303と重複関係にありSH301が古い。SH303との重複関係で全容は確認できなかったが、0.1m～0.15m程度貼床が確認できた。時期については床上の遺物は少なくSH303と合わせて精査が必要である。

SH302は長軸5.46m、短軸3.85m、深さ0.37mを測る。平面形状はやや台形状を呈する隅丸長方形である。2本柱とみられ主柱穴間は2.38mである。その他の遺構とも重複関係にあるが、付帯するかは不明である。壁面に沿って周溝が確認された。中央に平面形状楕円形の焼土が確認でき地床炉と考えられる。東側にL字状の高床面が確認された。床面からの比高差はおおよそ0.04m～0.08mである。出土遺物から時期は弥生時代終末とみられる。

SH303は長軸4.17m、短軸4.00m、深さ0.55mを測る。平面形状はやや台形状を呈する方形である。複数の遺構と重複関係にあるが、明瞭な柱穴は確認できなかった。出土遺物は甕、高坏、甑底部(穿孔有)、ミニチュア土器などが出土している。時期については出土遺物から弥生時代終末から古墳時代初頭とみられる。

今回の調査では、弥生時代終末から古墳時代初頭の住居跡3軒を確認できた。当該時期の住居跡はこれまで内精遺跡等でわずかに確認されている程度である。過去の1～2区調査では当該時期の遺構は確認されておらず、今回確認できたことは遺跡の性格を知るうえで大きな成果といえる。今回確認できた遺物は、弥生時代後期から古墳時代前期までが大半を占めている。それ以降の遺物は少なく、須恵器の出土もごく少量であった。このことから古墳時代初頭以降に集落は断絶したものと推測される。



上 段 : 古賀遺跡全景(東から)

中 段 : 古賀遺跡3区A地点(上が北)

下段左 : 住居跡 SH301・SH303(上が北)

下段右 : 住居跡 SH302(上が北西)